


# Topscan G3

## 歩行者の為の自動開閉 ドア用存在検知器

### 操作取扱説明書

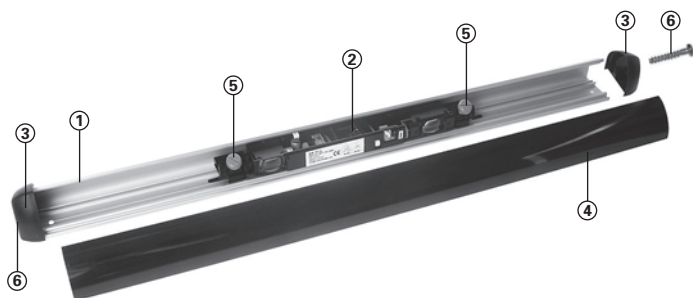
#### 1 安全の為に

 同器は、必ず安全電気分離機付きの保護低電圧で操作して下さい。販売代理店以外の方は修理を行わないで下さい。センサーの電子及び光学部分には絶対に触らないで下さい。

 センサーを雨から保護して下さい。また蛍光灯の周辺には設置しないで下さい。

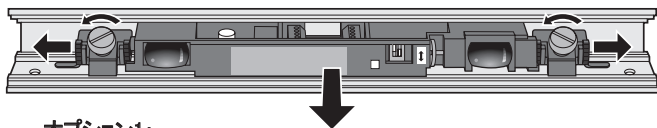
#### 2 準備／設置

##### 2.1 機器のカバーを開ける



- |                   |                             |
|-------------------|-----------------------------|
| ① アルミニウムカバー(側面)   | ネジを緩めて末端カバーを外す              |
| ② センサー(AIR 16 re) | フロントカバーを外す                  |
| ③ 末端カバー           |                             |
| ④ フロントカバー         |                             |
| ⑤ 取り付け金具 2×       | <b>注意:</b>                  |
| ⑥ プラスドライバー 2×     | 用途により、左右両方の末端カバーを外す必要があります。 |

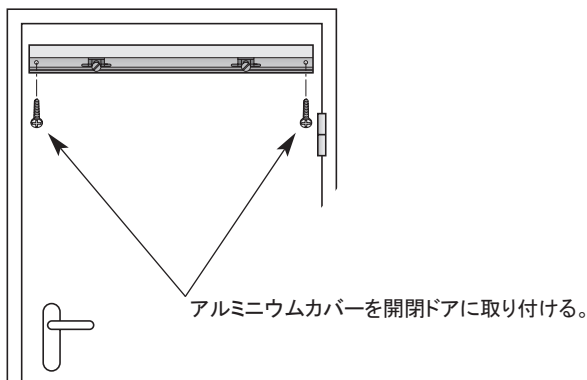
##### 2.2 センサーを移動させる



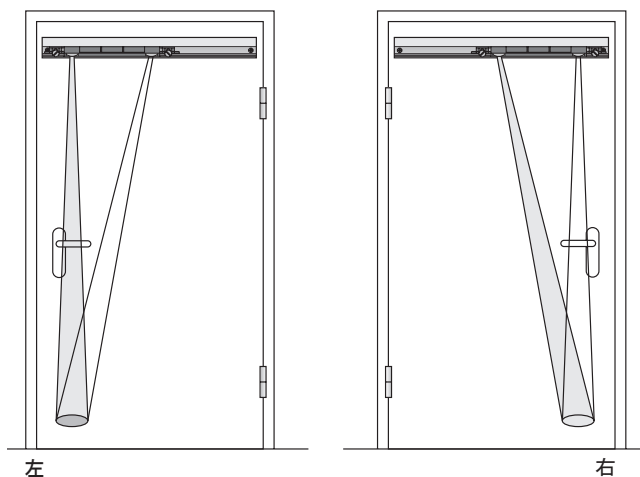
**オプション1:**  
両方の取り付け金具の赤いネジを外し、横にずらす。  
金具から慎重にセンサーを引き出す。

**オプション2:**  
赤いネジを外す。そして取り付け金具ホルダーと一緒にセンサーをスライドさせ、アルミニウムカバーから取り出す。

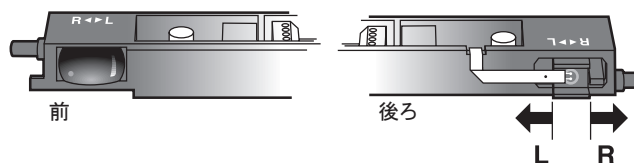
##### 2.3 カバーを取り付ける



##### 2.4 検知エリアの選択



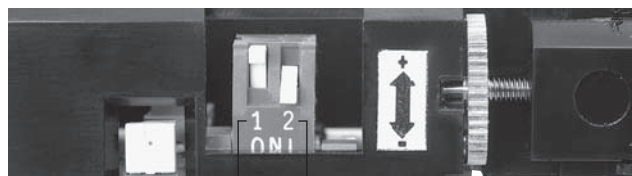
ドアノブの位置により、検知エリアは選ばなければなりません(右/左)。基準設定は右側です。



センサーの後側の光学方向をセットします。それを行ったらトランスミッターの位置を L か R にずらします。


**検知エリアの位置**  
L = 左  
R = 右


##### 2.5 スイッチモードと動作モードを選ぶ




スイッチ1 スイッチ2


##### 動作モード: 可動 もしくは 静止

-  ▶ 可動モード: スイッチ 1上  
- 背景は必要なしです。床は無視されます。(背景抑制)  
- センサーは動作モードのときはテスト出来ません。(テスト入力 TI 機能なしで)

-  ▶ 静止モード: スイッチ 1下(動いているドアには動められません)  
- 安定した背景が不可欠です。床は分析されています。(背景査定)  
- センサーはテスト入力によりテストすることが出来ます)

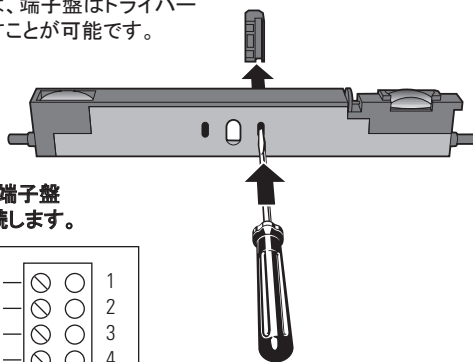
##### スイッチモード アクティブ/パッシブ変数

-  ▶ パッシブ変数: スイッチ 2上  
- 検知上、リレースイッチは共通から NC (2.6章参照)  
- この設定は、停電や配線ダメージは検知として解釈され、ドア個別の安全機能を始動させる利点があります。

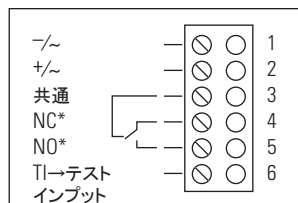
-  ▶ アクティブスイッチ: スイッチ 2下  
- 検知上、リレースイッチは共通から NO (2.6章参照)

## 2.6 電気接続

もし必要であれば、端子盤はドライバーで下から押し出すことが可能です。



表にしたがって、端子盤にケーブルを接続します。



\*アクティブもしくはパッシブスイッチ (2.5章参照)

**テスト入力における注意:**

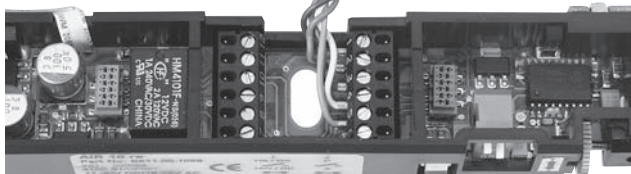
テストが可能なのは下記のみ:

- 静止モード
- DC電源供給

**テスト入力の機能:**

テスト入力がアクティブの時(電圧提示)、センサーはスイッチオフになります。これは検知をシュミレートし、正しく機能している時、リレーをスイッチします。

ネジ式プラグイン端子盤を元の状態に差し込みケーブルをガイドブリッジに沿って送ります。

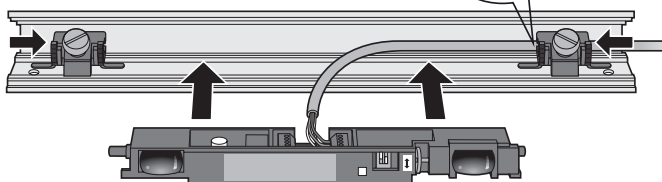


## 2.7 センサー取り付け

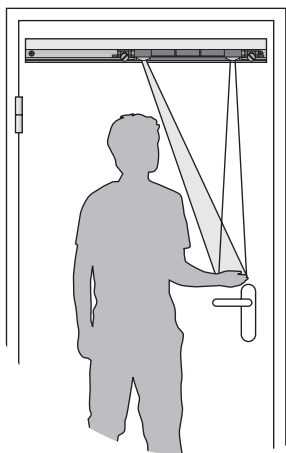
取り付け金具がカチッとする前に、赤いネジは外れていなければなりません。センサーをカバーに取り付け、そして取り付け金具をセンサーまでスライドさせます。

**注意:**

ケーブルは取り付け金具の裏側にします。金具にセンサーを挿入する前に、取り付け金具の赤いネジが完全に開いているかを確認めます。



## 2.8 設定の確認



設置が完了したら、センサーの電源をオンにします。

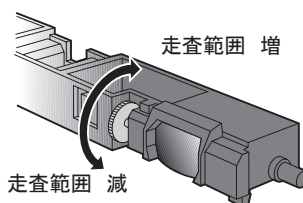
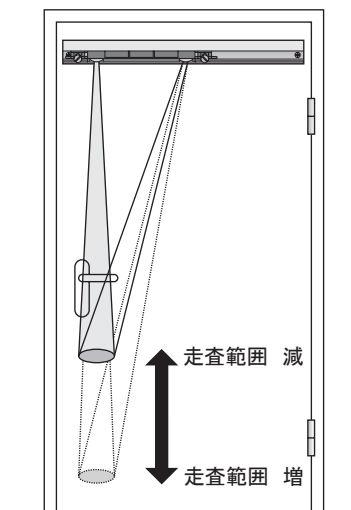
検知範囲を、紙(A4もしくは8.5"×11"のレター用紙)、もしくは手のひらで確認します。

もし必要であれば、2.9章、2.10章もしくは2.11章で説明されている特性に検知を適応させます。

**注意:** 存在を検知している時は、LEDライトはオンです。

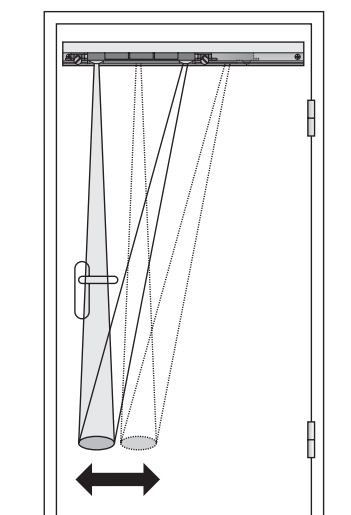
## 2.9 走査範囲

走査範囲を調整ネジで調整する。



床からおよそ 25 cm より上に走査範囲を設定する。

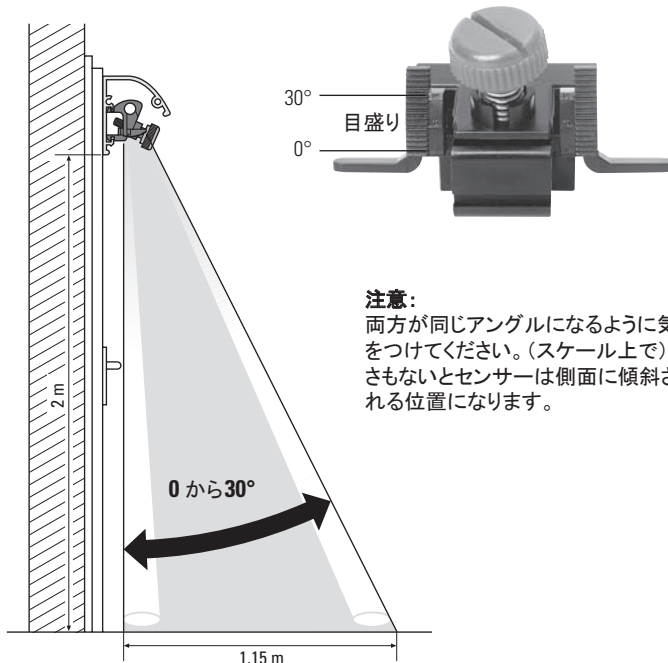
## 2.10 検知エリア調整



検知エリアを、センサーをスライドさせて調整する。(簡単に調整する為に、赤い取り付け金具は開いている事)

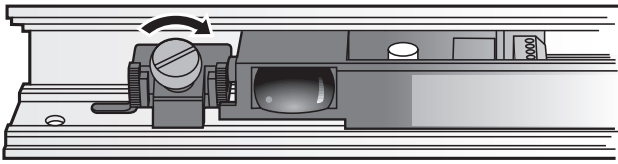
## 2.11 傾斜角度

取り付け金具の補助回り止めで、傾斜角度を設定する。



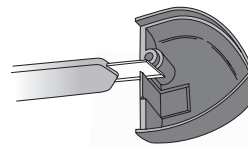
**注意:** 両方が同じアングルになるように気をつけてください。(スケール上で) さもないとセンサーは側面に傾斜される位置になります。

## 2.12 センサーを固定する



全ての設定が完了したら、取り付け金具の赤いネジでセンサーを固く締める。

## 2.13 カバーを閉じる



**注意:**  
必要であれば、末端カバーに表示されたケーブル用の穴を切り取る。

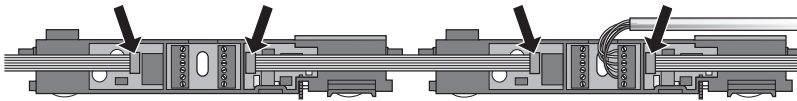


フロントカバーをアルミニウムカバーに取り付け、ネジを使って末端カバーを取り付ける。

## 3 延長用途

### 3.1 センサーが一つ以上の時

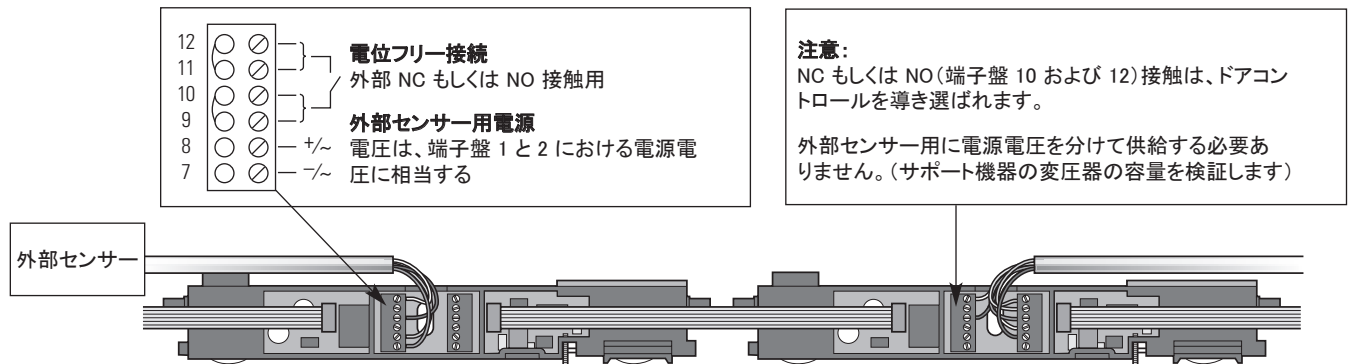
複数個のセンサーは、フラットリボン接続を用いて接続できます。



動作電圧(端子盤 1+2)およびリレー出力(端子盤 3,4 および 5)は、一度に複数のセンサーに接続されている必要があります。

### 3.2 外部センサー

外部センサーは、ネジ式プラグイン端子盤 7-12 により接続されます。



## 4 故障修理

問題	可能な原因	対処法
ドアが周期的もしくは部分的にしか開かない	-動作仕様でセンサーが、静止モードに設定されている -走査範囲が地面に近すぎる設定になっている	-動作モードにおいて稼働モードへ変更する。(2.5章参照) -走査範囲を正しく設定する(2.9章参照)
ドアが開かず、LEDが点灯しない	-スイッチモード(アクティブ/パッシブ)が間違っ設定されている	-スイッチモード(アクティブ/パッシブ)を変更する。(2.5章参照)
ドアが開かず、LEDがずっと点灯される	-走査範囲が地面に近すぎる設定になっている	-走査範囲を正しく設定する(2.9章参照)
ドアが開き、LEDがずっと点灯される	-スイッチモード(アクティブ/パッシブ)が間違っ設定されている -走査範囲が地面に近すぎる設定になっている	-スイッチモード(アクティブ/パッシブ)を変更する。(2.5章参照) -走査範囲を正しく設定する(2.9章参照)
対象物がないのにセンサーが検知する	-走査範囲が地面から遠すぎる設定になっている -二つのセンサーのフラットリボン接続が間違っ接続されている -直接あたる強い雨	-走査範囲を正しく設定する(2.9章参照) -センサーを交換する -センサーを交換する
センサーが検知し続ける	-センサーが蛍光灯の周辺にある	-傾斜角度を変更する(2.11章参照) -走査範囲を変更する(2.9章参照) -蛍光灯を移動させる
検知範囲に対象物がないのに不規則に検知をする	-反射背景と同時に垂直に傾斜角度を設置されている	-傾斜角度を増やす(2.11章参照)もしくは反射背景を移動させる

## 5 技術データ

検知エリア	100-2500 mm 500-2500 mm	静止モード用 稼働モード用
走査範囲設定	機械調整ネジ 1500-2500 mm	三角測量原理
従属温度	+60°C +10% -20°C -10%	20°C からの偏差は走査範囲設定参照
黒/白 差異	最大 20% 白: 走査範囲 大 黒: 走査範囲 小	黒と白の違いは、走査範囲設定参照
検知エリア	およそ直径75 mm	2000 mm の走査範囲用
ライトの種類	IREDD	パルス交流ライト 880 nm
操作電圧	17-30 V DC/18-28 V AC	
消費電流	<110 mA	
出力信号	リレー、チェンジオーバー接触 最大スイッチ電圧 48V AC/DC 最大スイッチ電流 0.5A AC/DC 最大スイッチ容量 55VA/24W	電氣的絶縁 通常電流(オーム負荷) 1A/24V DC 誘導用/容量性負荷 火花消去供給 オーム負荷
検知の反応時間	およそ30 ms	
検知後のドロップアウト時間	最大 150 ms 最大 2 s	静止モード 稼働モード
テスト信号の反応時間	最大 500 ms	DC 操作のみ可能
テスト入力	+UB で = 17-30V DC	静止モードのみ
動作モード	稼働/静止	切替可能
機能表示	赤 LED	対象物が検知されている時点灯
接続タイプ	ネジ式プラグイン端子盤	6 × 0.25 mm <sup>2</sup>
耐防油性	IP52 に準ずる	
カバー素材	アルミニウム/ABS	
フロントカバー	PC (黒)	
光学ユニット間距離	150 mm	トランスミッター/レシーバー
操作温度	-20°C ~ +60°C	
保管温度	-40°C ~ +80°C	
重量	45 g	カバーなしの時
センサーサイズ	198.5 × 31 × 20 mm	長さ/幅/高さ カバーなしの時
カバーの色	シルバー/黒もしくは白	バージョンによる
電磁環境両立性	耐干渉性は以下に順ずる: EN 61000-6-1, EN 61000-6-2 放出干渉性は以下に順ずる: EN 61000-6-3, EN 61000-6-4	CE : 89/336/EEC : EMC指令及び修正に準じる

## お問い合わせ先

### Bircher Asia Pacific Sdn. Bhd.

(Co. Reg. No : 260319-T)  
No. 3A, Jalan Dewani 1/1  
Taman Perindustrian Dewani  
81100 Johor Bahru  
Johor, Malaysia  
Phone ++60 7 276 18 10  
Fax ++60 7 276 18 11  
www.bircher-reglomat.com.my  
info@bircher-reglomat.com.my

## 保障および責任

1. Bircher Asia Pacificの保証および責任は販売契約に基づきます。
2. お客様または第三者が商品を説明書に沿って使用しなかった場合、あるいは不適当な改造や修理を行った場合、また、故障の際にお客様または第三者が損害を減らすための適切な処置を直ちに行わず、当社に改善の機会を与えない場合には、当社の保証および責任は無効となります。
3. 保証および責任は、材質、製造、技術の不良が確認されない場合の損害、または当社が責任を負えないその他の理由により生じた損害には適用されません。
4. 製造物責任法が適用されない場合、重大な損害の責任は負いかねます。
5. 販売契約に基づいて販売者に対して請求される保証は、これらの法規の影響を受けません。
6. Bircher Asia Pacificはお客様のため製品の改良を常時行います。当社はこれらの書類に記載された製品に対し、事前の通知なしに変更する権利を有します。